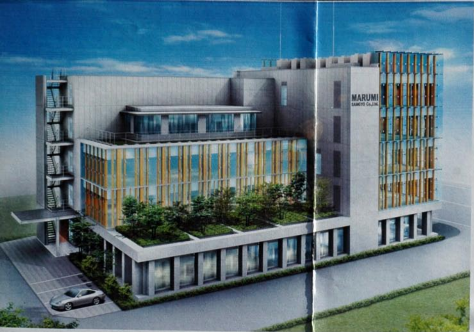
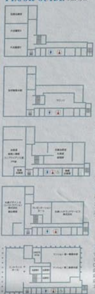


FLOOR GUIDE フロアガイド



5F
役員会議室
大会議室A
大会議室B

4F
住宅事業本部
ラウンジ

3F
名誉会長室
会長室
社長室
経理部
総務人事部
コンプライアンス室
PR室
情報企画室
役員応接室

2F
副会長室
丸美デザイン＆
コンストラクション株式会社
丸美リッチランドサービス株式会社
プレゼンテーションルーム

1F
マンション第一事業本部
マンション第二事業本部
OWNERS ROOM
応接室A
応接室B
応接室C
エントランスホール

丸美産業の新社屋は、"木"の特性（風格、風情、風合い、温もり、味わい、肌ざわり、懐かしさ、癒し―など）を、現代建築における建築技術の粋を集めて具現化した建築です。

現行の法令では、防火の関係上市街化地内で純粋な木造ビルを建てることができません。したがって近年木材業界において研究開発が進んでいる「木質ハイブリッド構造材」を主要構造として採用しました。これは"木"と"鉄"を組み合わせることによって、法令上必要とされる耐火強度を実現しようとするものです。

新社屋は、鏑木会長の"木"と"未来"に対する思いと建築家 高松伸さんの考える"木"の可能性、美しさを融合させた建物であり、外装部分にガラスで挟み込んだ「木質ハイブリッド」の柱と集成材の柱を外部に見せることでこれまでに例をみない外観になりました。

外観のデザインはもとより内部を可能な限りスケルトンにすることで、組織の変化にも対応がしやすく、充分な強度をもっています。1階と3階の屋上を一部緑化することによって、建物の環境と同時に地域環境にも配慮しました。

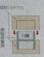
〈建物概要〉
- 構造・規模：木質ハイブリッド造（一部鉄筋コンクリート造）5階建
- 敷地面積：1,110.47m²
- 建築面積：879.66m²
- 延床面積：3,243.99m²
- 建物高さ：20.95m

〈設計・監理〉
高松伸建築設計事務所

〈施工〉
鹿島・名工建設共同企業体

ハイブリッド集成材柱構造

「木質ハイブリッド集成材」とは、カラマツ集成材の中にH型鋼を内蔵したものであり、近年、国土交通省総合技術開発プロジェクト（総プロ）と日本集成材工業協同組合が開発し、大臣認定が取得された1時間耐火部材です。新社屋は、この構法を使用した事例としては、国内最大の規模を誇ります。



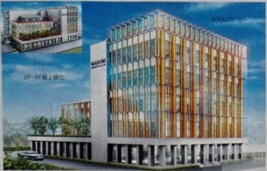
● 木質ハイブリッド材納入業者／齋藤木材工業株式会社

■燃え止まり現象

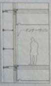
ハイブリッド集成材の耐火性能は、木材の「燃え止まり現象」によるものです。「燃え止まり現象」とは、着火して燃焼している材が、その表面に形成される炭化層の働きにより、燃え尽きることなく自然に鎮火して火種がなくなる現象をいいます。

写真：齋藤木材工業(株)

加熱中 → 加熱終了 → 炭化層除去



ダブルスキンカーテンウォール



「木」を風雨から守りつつ、「木」そのものを象徴的に表現するために採用されたガラスカーテンウォールは、ダブルスキン構造となっています。インナースキンには防火ガラスを装備し、必要な防火性能を確保するとともに、ダブルスキン構造によって、日射の遮蔽性や断熱性のほか、遮音性の向上を図っています。

■ガラスパラペット

外装の透明性を高めるために採用されたガラスのパラペット部分には、ダブルスキン内の熱を排出するためのファンや、清掃用のゴンドラなどの機能が集約されています。また、「木」を雨水から確実に守るために、2重・3重の止水対策が施されています。

大いなる一歩

今、「木」が注目されつつあります。近年の技術開発による強度や耐久性などの性能の向上、そしてなによりも木のエコロジカルな特質がそのような動向を促しているということは言えるでしょうが、なによりも「木」こそが日本人の文化の本質を形成しており、世代を超えて受け継ぐべき財産であることに、あらためて私達が気づき始めているというのがその大きな理由でしょう。一方で、現代社会、とりわけ都市において「木の文化」が花開くには、技術的・制度的制約など、まだまだ越えなくてはならないハードルがたくさん存在していることもまた確かです。とはいえ、その「木の文化」こそがこの建築の主題です。設計者は、この新社屋の実現という営為の彼方に、馥郁たる「木の文化」に香る都市を遠望していると言っても過言ではありません。

ある意味で小さな試みではありますが、この小さな一歩が「木」の可能性と未来を拓く大いなる一歩であることを私達は信じて疑いません。

高松伸建築設計事務所
高松　伸氏

建築家・京都大学教授、工学博士。40才にして日本建築学会賞を受賞。その後、芸術選奨文部大臣賞など数々の賞を受賞。ドイツ・デュースブルグ市再開発など国際設計競技にて最優秀賞を獲得し、海外でも活躍。主な作品にキリン本社ビル、国立劇場おきなわ、天津博物館など。アメリカ建築家協会名誉会員、ドイツ建築家協会名誉会員、英国王立建築家協会会員。

竣工を迎えて

新社屋竣工、誠におめでとうございます。私が今回プロジェクトの話を最初に聞いた時は、まだ図面もなくイメージパースしかありませんでしたが、とても斬新な印象を強く受けたことを覚えております。非常にスタイリッシュな建物になるという予感の反面、国内にほとんど例のないハイブリッド集成材での工法です。いざ工事に着手すると「どうやって施工するのか?」「どう解釈すればいいのか?」など悩みが絶えませんでした。本日の竣工を無事に迎えることができたのは、関係の皆様と「丸美産業様のニーズ」「設計趣旨」「意匠性」「各種関連法規」「コスト」「工期」「実現性」などについて、時に励まし合いながら根気強く答えを出していった結果であり、万感の思いを禁じえません。ご指導ご協力いただいた皆様、本当に有難うございました。

鹿島建設株式会社 中部支社
愛知南営業所
丸美産業新築工事事務所
所長 **加藤 公俊氏**